

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I. その人らしい暮らしを支える

(1) ケアマネジメント

(2) 日々の支援

(3) 生活環境づくり

(4) 健康を維持するための支援

II. 家族との支え合い

III. 地域との支え合い

IV. より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
 シャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和6年1月18日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 16名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	2名	

※事業所記入

事業所番号	3870105834
事業所名 (ユニット名)	グループホーム媛の華 1F
記入者(管理者) 氏名	藤田 婦久美(1F管理者)
自己評価作成日	令和5年12月21日

(別表第1の2)

<p>【事業所理念】 安心安全で楽しく、地域の中で共に支えあって生活できる場を提供します。</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】 介護記録へ介護計画の番号を記入することについては、各職員の意識の差や書き忘れもあり、習慣化しているとは言えない。ただ、その人、それぞれのニーズや目標を意識して、介護記録の記入を行っている。また、その日に出動していない職員にもその時の様子がしっかりと伝わるように詳細を記入している。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 事業所の近隣には、児童館やスーパーマーケット、小学校、バス停があるなど、生活を送りやすい環境となっている。近隣の児童館が開催するハロウィンなどのイベントに参加協力をしたり、中学校の生徒から鉢植えの花のプレゼントをもらったりするなど、地域との交流を大切にされた支援が行われている。また、職員に希望休や有給休暇の取得を促したり、資格取得の助成をしたり、内部研修を充実させてスキルアップを図るなど、事業所として、働きやすい職場環境づくりに取り組んでいる。さらに、何かあれば気軽に相談をしたり、助け合ったりするなどの職員同士の良好な関係が築かれ、長年勤務する職員もいる。加えて、職員から活発な意見やアイデアが出され、季節の花見やクリスマス会の行事に工夫した演出が行われるなど、利用者の楽しみのある生活にも繋がっている。事業所のホームページ内のブログには、イベントや日々の利用者の様子が掲載され、楽しみに見ている孫世代などの家族も多い。</p>
---	--	---

評価結果表

【実施状況の評価】

◎よくできている ○ほぼできている △時々できている ×ほとんどできていない

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I. その人らしい暮らしを支える									
(1) ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	利用者様に意向、希望をたずね、ケアプランに記入している。	◎	/	○	入居時に、管理者等は利用者や家族から暮らし方の希望や思いなどを聞き、アセスメントシートやフェイスシートにまとめて記録をしている。また、介護計画の更新時や来訪時、電話連絡の際にも、家族から意向を確認し、把握するよう努めている。また、日々の関わりの中で、利用者から新たに知り得た思いや意向はシートに追記して、職員間で共有をしている。中には、思いや希望を伝えることが難しい利用者もあり、職員は表情や様子を観察しながら、思いをくみ取るよう努めている。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	日々の様子や仕草で判断している。	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	入居時、生活歴シートに記入していただいている。家族来所時、ケアプラン見直し時は必ずご意向の確認をしている。(来所がない場合は電話連絡をしている)	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	生活歴シートを作成することで、本人の思い等の把握に努めている。	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	日々の様子をしっかりと確認、職員間で共有し、思い等を見落とさないようにしている。	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	入居時の生活歴シートを基に本人、家族から直接話をきいている。	/	/	◎	入居時に、家族に生活歴シートを記入してもらうほか、可能な限り、管理者等は自宅を訪問して利用者や家族と面談を行い、こだわりや生活歴、馴染みの生活環境などを聞き、情報が把握できるよう努めている。また、把握した情報は、利用者の個別ファイルに綴じ、職員がいつでも確認して共有できるようになっている。また、入居前に利用していた居宅介護支援事業所の介護支援専門員から情報を聞くほか、病院の関係者からサマリーなどの情報を提供してもらうなど、病歴や入居に至るまでの経緯などの情報も把握をしている。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態(身体面・精神面)や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	日々の変化について、職員と共有しながら、出来る事出来ない事等の把握をしている。	/	/	/	
		c	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握に努めている。(生活環境・職員のかかわり等)	○	日誌に記入し、一人一人の生活リズム等を把握できるようにしている。	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	情報を共有し、本人の要求に出来るだけこえる様話し合っている。	/	/	○	月1回の職員会議のほか、日々の申し送りの中で、利用者や家族から聞いた意見や意向のほか、把握した情報をもとに職員間で話し合い、利用者の課題やより良いサービス内容を検討している。
		b	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題の把握に努めている。	○	課題を明らかにし、ケアプランを作成。それに基づき、実行するようにしている。	/	/	/	
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	◎	日々の生活状況や会話等で思いや意向をくみ取り暮らしに反映するよう内容になっている。	/	/	/	◎ 事前に、利用者や家族から意見や意向を聞き、アセスメント情報や把握した情報をもとに、職員間で意見を出し合いながら話し合い、各ユニットの計画作成担当者を中心に介護計画の原案を作成し、法人の役員が最終確認をしている。また、利用者や家族の意向や要望のほか、主治医などの関係者の指示や助言を反映した計画となるよう努めている。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	◎	本人、家族様の意向をふまえ、自分らしく生活して頂くことが出来るよう作成している。	◎	/	/	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	重度であっても、日々生活を共にすることで、声掛け、タッピング等で安心して過ごして頂けるような内容となっている。	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	◎	本人の支え手として、安心して暮らしていけるよう協力体制になっている。地域の人たちとの協力体制は現在出来ていない。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	◎	担当者が中心となり、モニタリングを行うことで全員が共有できるようにしている。	/	/	/	○ 利用者の個別の介護記録のファイルに、介護計画が貼付され、記録を入力する際に、職員は計画の内容を確認できるようになっている。介護記録の様式には、サービス内容の番号が振られ、計画に沿った支援ができていくかどうかを確認しやすくなっている。また、介護計画の作成時や更新時には、職員に回覧を行い、一人ひとりの利用者の介護計画の内容を周知するとともに、把握や理解促進に努めている。さらに、3か月に1回利用者ごとの担当相員を中心にモニタリングを行い、計画に沿ったサービスの実施の有無のほか、利用者の状況の確認をしている。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを個別具体的に記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	介護記録に計画書を貼って、確認しながら、記録するようにしている。変化があった場合は全員の意見を聞き取り、特にしっかり記録に残すようにしている。(体調変化等)	/	/	/	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	○	定期的(3か月)にモニタリングを行い、見直しを実行している。	/	/	/	◎ 介護計画の期間に応じて、基本的に3か月に1回計画の見直しをしている。計画の変更前には、担当職員を中心に、全ての利用者のモニタリングを行い、現状を確認するとともに、職員間で話し合いをしている。また、大きな状態の変化が生じた場合には、速やかに利用者や家族、関係者を交えて話し合い、現状に即した介護計画を作成している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	担当者が中心となり、変化の有無にかかわらず現状確認をしている。	/	/	/	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	変化が生じた場合は、主治医に報告し、意見を頂いた上で話し合いを行い、現状に即した計画を作成し実行するようにしている。	/	/	/	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	◎	月1回職員会議で話し合いをしている。緊急案件がある時は即話し合いをするようにしている。又、ノートを活用し徹底を図っている。	/	/	/	◎ 月1回ユニット合同の職員会議を開催し、利用者の現状確認や課題のほか、運営状況などの話し合いをしている。議題提案書が設けられ、職員が事前に提案を提出し、会議の中で話しやすいような工夫をしている。また、勤務状況を考慮し、事前により多くの職員が会議に参加できる日を決め、周知をしている。さらに、緊急案件のある場合には、その日の出勤職員で話し合いをしている。加えて、会議に参加できなかった職員は会議録を確認してもらい、情報を共有している。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	全員参加は難しいこともあり、申し送りノートを活用し意見交換できるようにしている。	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫するとともに、参加できない職員にも内容を正確に共有している。	○	全員参加はシフト上難しいが、毎月日時を決め、できる限り参加して行うようにしている。又、回覧・ノート等でそれぞれが内容の確認をしている。	/	/	/	
8	確実な申し送り、情報伝達		日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	◎	朝・夕10分程度の申し送り時間を設けて、情報共有している。日誌には必ずささいな事でも記入し、全員に伝わるようにしている。	◎	/	◎ 日誌や申し送りノートを確認しながら、日々朝夕の申し送りを実施している。出勤時に、必ず全ての職員が日誌の確認を行い、確認後に押印をする仕組みづくりが行われ、利用者の様子の確認や業務連絡の周知徹底をしている。また、申し送りノートのほか、介護記録内の重要事項にマーカーを引いて分かりやすくするなど、確実な情報伝達に努めている。	
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切に支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	朝に希望をきき、可能なことは取り入れている。(2~3択)	/	/	/	◎ 毎朝、職員は利用者の方に声をかけ、その日に行うレクリエーションの内容のほか、何をしておきたいかなどを聞き、なるべく希望に沿えるような支援に努めている。お茶の時間の飲み物は、紅茶やコーヒー、野菜ジュースなど、数種類の中から、好みの物を選ぶようにしている。また、職員から活発な意見やアイデアが出され、季節の花見やクリスマス会の行事に工夫した演出が行われるなど、利用者の楽しみのある生活にも繋がっている。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくらせている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	余暇時間においては、何かしたいですか？何をしたいですか？等問いかけ、出来る限り意向に沿うように努めている。	/	/	/	
		c	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切に支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	生活のペースがしっかりしている利用者に対しては、それに沿った支援をしている。重度の利用者の方に対しても、ゆったりとしたペースで支援するよう心掛けている。	/	/	/	
		d	利用者の活き活きした言動や表情(喜び・楽しみ・うらおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	日々様子を観察し、どうすれば良いか考えている。	/	/	/	
		e	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	必ず声掛け、ボディタッチをしている。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切に言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。(人前であかさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮、自立たずさげない言葉かけや対応等)	○	研修に必ず取り入れている。職員同士で注意し合っている。	◎	○	◎	◎ 定期的を実施する研修の中で、職員は人権や尊厳などを学び、プライバシーや羞恥心に配慮し、意識した声かけや支援に努めている。気になる言葉遣いなどが見られた場合には、職員間で注意し合うことができている。また、居室を利用者のプライバシーのある空間と認識し、居室の入室時に、職員は必ずノックや声をかけてから入室をしている。居室の不在時にも、事前に利用者の声をかけ、了承を得てから入室したり、一緒に入室したりすることも期待される。さらに、希望に応じて、居室の扉を開放している利用者もいるが、居室内が見えすぎないようにレースの暖簾をかけるなどの工夫も行われている。
		b	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	○	入浴中は必ずのれんをし、安心して入っていただくよう努めている。	/	/	/	
		c	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	居室に入る際には、声掛けし訪査するように努めている。	/	/	/	
		d	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	研修に取り入れ、一人一人が理解している。記録を行う際には、外部、利用者様に見えないように努めている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けてもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	利用者様からお手伝いをしてもらったり、さいなんでも感謝の意はお伝えしている。				声荒げたり、物を投げたりするなどのトラブルが発生した場合には、大きなトラブルに発展しないように、職員が早期に利用者へ声をかけて、話を聞くなどの対応をしている。また、利用者同士の関係性を把握し、配席の考慮をするなどの工夫をしている。中には、世話役的な利用者もあり、レクリエーションの参加や家事をする際に、他の利用者にお誘いの声かけをしたり、職員に「何か困ったことはないかな」と声をかけ、気にかけてくれたりするなど、助け合いや支え合う場面が見られ、職員は大いに助かっている。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	十分に理解できている。どのような支援をすることで、仲良く暮らしていけるか、その都度話し合い実行している。				
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらおう場面をつくる等)。	○	早め早めに職員が入り、別の話題にすることでトラブルとならないように努めている。				
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	少し様子を観て、いつ間に入るかを見極め、解消に努め、他利用者の方々に不安を生じさせないようにしている。				
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	生活シートで家族に聞いたり、直接本人との会話の中で把握している。				
		b	知人や友人等が気軽に訪れたり、本人が知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていったりなど、これまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	○	面会が出来るようになり、気軽に訪れていただけようになってきた。コロナ禍で思うように会うことが出来なかつたり、外出もままならない状況が続いたので徐々に関係を取り戻して頂けるよう支援している。				
13	日常的な外出支援	a	利用者(および意思表示が困難な場合はご家族)の希望に沿って、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定していない) (※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	○	暑さの為、居室内で過ごすことがほとんどであったが徐々に庭の散歩、外出等を実行していきたい。家族様にも声掛けしていきたい。	○	△	○	感染対策で、買い物などの外出支援は控えているが、天気の良い日には、事業所の庭で日光浴をしながら季節の花の鑑賞をしたり、事業所周辺を散歩したりするなど、日常的に屋外に出て、利用者に季節や外気を感じられるような支援に取り組んでいる。また、コロナの5類移行に伴って制限が緩和され、近隣の小学校に桜を見に行ったり、ドライブに出かけて、車窓で花火大会を見たり、初詣で神社を参拝するなど、少しずつ以前のような外出支援ができるようになり、利用者にも喜ばれている。
		b	家族、地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	○	家族には協力をお願いしていきたい。				
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	心理症状等でわかりづらい時は主治医に相談し、意見をあおぐようになっている。それに沿って、不安、不穏を取り除けるようケアに努めている。				一人ひとりの利用者の身体状況のほか、自身でできることや一部介助でできることなどを記録に残し、職員は把握することができている。また、着替えの際には、着る服を事前に用意して、自分でできることは時間がががかっても可能な限りしてもらい、職員は見守りやできない部分のサポートをしている。さらに、散歩や体操を取り入れるほか、日常の動作を極力自分でしてもらうなど、少しでも心身機能の維持を図れるよう支援している。さらに、居室のタンスに、中にある下着や衣服などを記載したインデックスラベルを貼り、分かりやすく利用者自身で衣服を整理してもらえるよう工夫をしている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	わかりづらい時は主治医に相談するようにし、その上で職員間で話し合い、維持、向上が図れるよう取り組んでいる。				
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	日々の生活の中で、しっかり見極め、出来る事はしていただくようにしているが、つい口を出したり、手を出したりする事もあるので、寄り添う姿勢で対応するよう努めている。	◎		○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	一人一人の生活を見極めた上で、余暇活動に取り入れれたりお手伝いをお願いしている。				洗濯物たたみや調理の下ごしらえ、テーブル拭きなど、職員は声をかけ、好きなことや得意な役割を担ってもらえるよう支援している。訪問調査日には、リビングのテーブルを囲み、利用者と職員が会話を楽しみながら、ゴミを捨てるのに便利な新聞折りをする様子を見ることができた。また、事業所内に置かれたプランターで野菜づくりが行われ、水やりを手伝ってもらったなど、野菜の成長や収穫が楽しみのある生活にも繋がっている。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、ホームの内外で一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	その方の出来る事を見極め、役割、出番をつくるように心掛けている。	○	○	○	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つとらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	自分の好みの道具を使用して、整容出来ている。				月1回訪問理容の来訪があり、好みの髪型に散髪してもらうことができています。重度の利用者にも、ベッド上で楽な姿勢のまま、散髪してもらうことも可能で、大いに助かっている。中には、居室に鏡やスキンケア用品を置くなどの整容スペースを設け、化粧やおしゃれを楽しむ利用者もいる。また、男性利用者には電子シェイバーを渡し、自分で髭剃りをしてもらい、職員は剃り残しの確認などのサポートをしている。さらに、衣類の乱れや食べこぼしなどの汚れが見られた場合には、利用者のプライドを傷つけないように、職員はさりげない声かけを行い、居室に移動して着替えてもらうなどの対応をしている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	○	例)カットする時など、本人の希望に沿うようにしている。洗顔、シャンプー等も本人の希望のものが使用できるようにしている。				
		c	自己決定がにくい利用者には、職員が一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	何枚か洋服等の候補を出して、一緒に選ぶようにしている。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせたその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	その時の季節、行事に合った洋服を提案し、本人に選んでもらうようにしている。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にできなくてカバしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	日頃より、気にかけてながらさりげなく声を掛けるようにしている。食後は特に気を付けている。	◎	◎	◎	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	コロナ前は、出掛けている方もおられたが、現在は2〜3カ月に一度、来訪してカットしている。(家族様からの要望もある)				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	起床後、整容を行っている。				
		h	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	ゆっくり、味わいながら、楽しく食べていただく。				
17	食事を楽しむことのできる支援	a	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	○	外部業者に献立、食材の配達等を依頼している。調理はホームで行っている。			○	業者の食材の宅配サービスを利用し、野菜を切るなどの調理の下ごしらえを利用者に手伝ってもらいながら、同封されたレシピを見て、職員が調理をしている。利用者が食事を楽しめるように、毎月おでんの日や鍋の日、お好み焼きの日などを季節に応じて設け、宅配を止めて、職員がその日の食材の買い出しを行い、利用者と一緒に調理をすることも。また、おせち料理や七草がゆ、鏡開きなどの行事食を取り入れ、利用者に喜ばれている。アレルギーの有無や苦手な食材を事前に職員は把握し、代替の食材を提供するなどの対応をしている。食事の際に、職員は食事介助や見守りを行い、別々の時間帯に、リビングで利用者と同じ食事を摂っている。食器類は、利用者に持参してもらうことができるほか、事業所で用意した使いやすい物を使用している。さらに、重度の利用者も含めて、基本的に全ての利用者がリビングに出て食事を摂ることができており、オープンキッチンから調理の音や匂いを感じることができる。加えて、業者の管理栄養士が考えた、栄養バランスの取れたメニューが届けられ、必要に応じて、食事の摂取量や味付け、食の形態などを職員間で話し合いをしている。訪問調査日には、食後に、利用者から「今日の魚は美味しかった。もう1回食べたい」などの笑顔で職員と会話を交わす場面を見ることができた。
		b	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	下膳等、一緒に行っている。テーブル拭きなども「私が」と手伝って下さる。				
		c	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	把握できており、苦手なものは少なめで提供したりするようにしている。				
		d	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって音なつかしいもの等を取り入れている。	○	月7日は業者の献立とは別に提供している。季節感も大切にしている。小豆ご飯、寿司、カレー、お好み焼き、おでん等。			◎	
		e	利用者一人ひとりの咀嚼、嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法として、おいしいような盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	○	特に色どりには気を付けている。又、身体機能、体調に合わせた調理方法を、提供している。ソフト食も使用している。				
		f	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	それぞれ別のものを使用し、私物感を出している。			○	
		g	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	×	ホームでは職員は弁当持参している為、一緒に食卓を囲むことはないが、食事中は見守りをおこなわず、ゆっくりよく噛んで食べて下さい等声掛けするようにしている。			△	
		h	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	食事前にはしっかり声掛けし、これから朝ごはんを食べますよ等と伝えている。	◎		○	
		i	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	食事形態、し好みなどは主治医に相談してから提供している。				
		j	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	主治医に相談している。又、家族にも報告している。ホームでも脱水にならないよう、補水液、野菜ジュース、牛乳等はお出しするが、それでも難しい時はし好みなど、家族より提供していただくこともある。				
		k	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	業者が入っている。			○	
l	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	調理用具、食器等は食器洗浄機を使用している。届いた食材はすぐ冷蔵、冷凍庫に保管している。						

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	週1回、歯科往診があり、口腔ケアの必要性、重要性を理解できている。				毎食後に、職員は声をかけ、利用者は歯磨きなどの口腔ケアを実施している。自分で歯磨きができる利用者を含めて、全ての利用者の口腔内の状況を確認することができる。また、週1回歯科医の往診があり、希望する利用者のほか、訴えや異常が見られた場合には、診療を受けることができる。さらに、3か月に1回、全ての利用者が歯科検診を受診し、口腔内の状況を確認してもらうこともできている。加えて、歯科医や歯科衛生士から口腔ケアの方法等のアドバイスを受けているほか、年1回歯科医に勉強会を実施してもらうなど、職員は口腔ケアの必要性や重要性を理解することができる。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	歯科医より報告を受けている。			◎	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	ブラッシングの仕方等を学び、支援に活かしている。				
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	仕上げは職員が行っている。				
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック、歯科医の受診等)	○	週1回の往診あり。			◎	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	自立を目指し、入居時、オムツ使用の方もリハビリパンツで生活出来る様支援している。				事業所では、可能な限り利用者がトイレで排泄できるよう支援している。利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、定期的やタイミングを見て、職員は声かけやトイレ誘導をしている。排泄支援を通して、使用していたパッドの使用枚数が減少したほか、紙おむつから紙パンツに移行することができた利用者もいる。また、適切な排泄用品が使用できるように、職員会議や日々の申し送りの中で、職員間で話し合いをすることもある。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	水分不足等でも便秘につながることや不穏状態に陥りやすいこと等は理解している。				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	毎日、チェック表に記入することで把握できている。				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々々の状態にあった支援を行っている。	○	職員間で話し合い、日中、夜間の使い分け、その時の状態にあったものを使用できるよう支援している。	◎		○	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	職員間で話し合い、工夫している。又、主治医に相談し指示をおおぐこともある。				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	毎日のチェック表より、パターンを割り出し、早目に対応することで、失禁をなくすように努めている。				
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	職員間で話し合い、色々使用してみても最良のものを使用している。昼夜も別々のものを使用している方もおられる。その都度、家族にも連絡し、同意を得ている。				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	○	使い分けが出来ている。				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	水分摂取、ヨーグルト、牛乳、野菜ジュース等で対応、又、日々の体操も数種類あり、楽しく体を動かして頂き、自然排便につながるよう取り組んでいる。				
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)	○	一人一人の希望に合わせることは難しいが、最低週2回、20分程度で入浴して頂いている。その時間は一対一でいろいろな話をしながら楽しく入浴出来る様工夫している。	◎		○	基本的に、週2回利用者は入浴することができる。職員の勤務状況により、入浴できる曜日や時間帯を決めているが、利用者の希望に応じて、ゆったりとした湯船に浸かる長さや湯の温度などに対応している。また、1階にはリフト浴が設置され、利用者の状態に応じて使い分け、安心安全に湯船に浸かれるよう支援している。さらに、入浴を拒む利用者には、無理強いをすることなく、日にちや時間帯を変えて、声かけをするなどの対応をしている。加えて、自分専用の好みのシャンプーを使用してもらったり、冬至にゆずを浮かべたりするなど、少しでも入浴が楽しみになるような支援も行われている。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	○	この時間は一対一で色々な話が出るので、くつろいだ気分で入られている。				
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	話をしながらも、出来る所は洗っていただき、仕上げは介助させて頂き、安心・安全に入浴していただいている。				
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせずに気持ち良く入浴できるよう工夫している。	○	強く拒否がある時は、翌日にしていただくこともあるが、少し順番を遅らせたり、話をすることで納得してもらい入浴してもらうことが多い。				
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	入浴前はバイタルチェックをしている。入浴後は水分補給を行い状態観察をしている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	把握できている。日中の状態なども把握している。	/	/	/	事業所には、入居前からの継続を含め、睡眠導入剤を服用している数名の利用者がいるものの、一人ひとりの利用者の睡眠状況を確認して医師に報告するとともに、薬の適量などを相談しながら調整をしている。また、夜間に利用者の目が覚めた場合には、職員が寄り添って話を聞いたり、付き添って事業所内を歩いたりするなどの対応をしている。さらに、日中に、より多くの活動や日光浴をしてもらうなど、なるべく服薬に頼らず、夜間に利用者が自然な安眠をしてもらえるような支援に取り組んでいる。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	日中は、1時間程度の休息にできるよう掛けている。	/	/	/	
		c	利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	日誌、記録等で利用者様の状態を把握している。数日間、不眠、不穏、不調が続いている場合は主治医に相談し、対応している。	/	/	/	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	個別に取って頂いている。支援の必要な方は日中、1時間程度休んで頂くようにしている。	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	希望があれば、対応している。	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	不穏時は、電話で声をきいてみますかなどと声掛けし、こちらから家族様にすることもあり。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	要望があれば、いつでも掛けられるようになっている。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	家族様に届いた旨を伝え、その時の様子など、月1回お出ししている手紙に書いて報告している。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力してもらおうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	各家族様には協力してもらっている。淋しさ等で不穏になられた時などは、こちらから電話をして、話をしてもらうこともあり。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	大切なことを理解しているが、トラブル回避のためにも、原則お金は預からず、買い物時には立て替え購入している。	/	/	/	
		b	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	○	コロナ禍もあり、一緒に外出して買い物は難しいが、ドライブ等は徐々に再開している。(花見など)	/	/	/	
		c	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	○	個人的に所持している利用者様については家族と利用者様の責任において所持してもらっている。	/	/	/	
		d	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	原則、お金は預からないようにしている。	/	/	/	
		e	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	原則、お金は預かっていない。必要物品の購入についてはご家族に相談した上で、立替購入している。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	外部受診や必要な物品購入等、家族に依頼ができない場合は、職員が対応する。	◎	/	○	以前は、家族と一緒に外出や外泊することができていたが、コロナ禍や感染対策が続き、制限が設けられ、対応できない状況が続いている。また、感染対策の緩和に伴い、予約制で30分程度、居室内での面会が可能となっている。利用者や家族から出された要望には、可能な範囲で対応をしている。
(3) 生活環境づくり									
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	玄関先には季節に合った鉢植え等を置き、気軽に訪問していただけるよう工夫している。又、面会も制限付きで再開している。	◎	○	○	玄関扉にガラス張りの部分があり、来訪者は事業所内の様子が見えるようになっている。駐車場に門扉が設置されているものの、常時開放され、大きな看板が設置されるなど、車での来訪がしやすい環境となっている。玄関先には、手入れされた季節の花の鉢植えなどが置かれ、明るい雰囲気を感じられる。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を感じており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものが置いていない寂風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていない等。)	○	置物、造花、飾り等を置く場所、時期などを見計らいながら、家庭的な雰囲気を味わって預けるよう工夫している。	◎	○	○	リビングには、季節の飾り付けや造花などが飾られ、家庭的な雰囲気を感じられる。廊下には、華やかな日本画のジグソーパズルの作品が飾られ、階段の踊り場などの各所に、生花が生けられている。また、毎日の清掃や整理整頓が行われ、空気清浄機を置くなど、快適な空間づくりをしている。訪問調査日には、不快や音や光、臭いなどは感じられなかった。さらに、事業所内には、昭和歌謡やクラシックなどの音楽が流され、利用者はリラックスしながら生活が送れるよう工夫をしている。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	毎日掃除を行っている。換気や消臭・スプレーを適宜使い、気持ちよく過ごしやすいよう配慮している。			◎	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	金魚を飼育しているため、五感の刺激になっているように見受けられる。「元気がいい?ごはん食べたかい?」と話しかけ、名前を付けている人も居た。			◎	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	リビングで話したり、居間で過ごしたりと、ご自分のペースで生活していただけるようにしている。				
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	ご自分が使用していた食器、家具などを持参されるなど本人が居心地よく生活できるようにしている。	◎		○	居室には、ベッドやタンス、エアコンが備え付けられている。また、使い慣れた家具や雑貨類などのほか、馴染みの物を持ち込んで配置するなど、居心地の良い空間づくりをしている。中には、好きな手芸などの作品が置かれ、居室内に作業できる机を置き、趣味を楽しむスペースを設けている利用者もいる。
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、混乱や失敗を防ぎ、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	家具は、配置に気を付けている。ご本人のTV、作品、写真、カレンダーなどを置いて安全に過ごしていただけるようにしている。			○	居室の入り口に氏名のほか、浴室を分かりやすく表示するなど、利用者が迷わないよう工夫をしている。また、廊下には不要な物を置かず、歩行器や車いすで移動できる十分な動線が確保されている。
		b	利用者の活動意欲を醸成する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	さまざまなレベルの方がおられるため、生活空間に置くことは難しいが、希望があれば、すぐ対応できるようにしている。				
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の入り口、玄関に鍵をかけることの弊害(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)を理解し、日中は玄関に鍵をかけなくても済むように工夫している。(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)	○	しっかりと理解し、解放している。	◎	◎	◎	職員は、鍵をかけることの弊害を理解している。日中に、玄関の施錠はしておらず、夜間のみ防犯のために施錠をしている。駐車場の門扉は、常時開放されている。また、各ユニットの入り口も、日中に常時開放され、夜間のみ各ユニットで職員が1人になるため、扉を閉めるようにしている。さらに、ユニットの入り口にはチャイムが取り付けられ、利用者の出入りを職員は分かりやすくなっている。中には、外出願望のある利用者もおり、職員と一緒に屋外に出て気分転換を図ったり、ゆっくりと話を聞いたりするなど、利用者の気持ちに寄り添いながら、安心してもらえるような心がけた支援に努めている。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	利用者様の動きには十分気を付け、夜間以外は解放している。				
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	アセスメント、医療情報等をしっかり確認している。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	細かく記録を行い、職員間で共有し、周知徹底できている。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等いつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	○	少しでも変化があれば協力医療機関に相談し指示を仰いでいる。				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受診状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師を受診できるよう支援している。	○	家族の希望を受け入れ、外部受診できている。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	家族、事業所、ホームドクター3者間の連携を密にし、適切な医療で受けられるようにしている。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	通院はご家族様をお願いしている。結果報告を受け、その旨をかかりつけ医に連絡している。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	サマリーで情報を提供し、それ以外での問い合わせについても対応できている。	/	/	/	
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、日頃から病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	ケアマネを中心に、早期退院出来るよう、情報交換を密に行っている。	/	/	/	
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	○	常時NSは、不在のため、訪問看護が入っているが利用者様の状態変化についてはかかりつけ医に報告し指示を仰ぐようにしている。	/	/	/	
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	○	かかりつけ医が24時間体制で、夜間往診もして下さる。	/	/	/	
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできる体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	1日1回バイタルチェックを行う。少しの変化でも細めに記録をし、職員間で共有すると共にかかりつけ医に報告し、早期治療につなげている。	/	/	/	
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解し、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	診察時、主治医より、説明を受けている。その上で変化等あれば、記録を残し、各方面に情報提供している。	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	1回分ずつを分け、服薬時には再度確認している。服薬は職員が行っている。	/	/	/	
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	本人の状態の変化等について、職員間で意見交換し記録に残すようにしている。	/	/	/	
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	入居時、状態変化時には家族様に連絡し、意向を確認、主治医の意見を基に今後の方針を共有している。	/	/	/	事業所は、「看取り介護に係る指針及び規定」を整備し、入居時のほか、状態変化が生じた場合等に、利用者や家族に対応できることなどを説明している。また、「看取り介護のための手引き」が作成され、年1回程度、看取り研修を実施するなど、重度化や終末期の支援に対して、職員の理解促進に努めている。事業所には、医療機関と24時間連絡が取れる体制が整備され、終末期に主治医から家族に状態等の説明が行われ、看取り支援の方針を共有する場を設けるなど、家族等が納得した支援が行われるように取り組んでいる。さらに、看取り支援時には、家族と利用者が最期の時間を共有できるように、時間制限等を設けずに、居室内でゆっくりと過ごしてもらっている。加えて、看取り支援後には、職員間で支援の振り返りを行い、今後の支援に繋げている。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族だけではなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	主治医に相談し、家族に状態をしっかり把握していただいた上で、その後の方針を共有するようにしている。	○	/	◎	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	話し合いをし、チームケアで支援出来るように努めている。不安を抱える職員に対しては、助言をしている。	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	入居時に説明している。又、重度化した時には、主治医の意見を参考にし、どのような対応ができるのか、説明を行い理解していただけるようしている。	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	穏やかな気持ちで過ごしていただけるように、各部署と連絡を図りながら支援していくようにしている。	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	十分に話し合いをした上で、家族様の想いを大切にし、支援できるよう努力している。	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	月1回の職員会・勉強会で話し合っている。	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	万が一の時の対応は日頃より、話し合いを重ね体制を整えている。	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れ、随時対応している。	○	日頃より、情報を入手するようになっている。	/	/	/	
		d	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	日頃より徹底している。自分で丁寧には出来ない方は全介助し、清潔を保っている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人をともに支え合う家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	月1回、ご本人の様子を手紙で送付している。面会時にも近況報告を行い、一緒に支えていく関係を築こうとしている。	/	/	/	コロナ禍や感染対策が続き、家族の参加できる行事の開催は休止状態が続いている。今後、夕涼み会などの行事を兼ねて、家族会を開催することを予定している。また、事前の予約制で、30分程度の居室内での家族との面会が可能となり、毎週来訪する家族がいるなど、利用者や家族に喜ばれている。月1回、利用者ごとの担当職員が利用者の様子を書いた手紙を添えて、請求書と一緒に送付するとともに、様子が日頃と違う場合等にも、家族に電話連絡をしている。希望に応じて、オンライン電話で連絡を取り合う家族もいる。さらに、様々な行事の写真などを掲載した嬢の華よりを、1年分を取りまとめて家族に送付している。加えて、ホームページ内にあるブログには、日々の利用者の暮らしの様子を掲載し、情報を発信している。利用者家族等アンケート結果から、事業所の出来事や職員の入退職などが家族に十分に伝わっていないことが窺えるため、今後は、家族に担当職員等の異動を報告したり、運営推進会議等の中で、職員の入退職や入れ替わりのないことを伝えたり、事業所の出来事を報告するなど、周知方法を職員間で検討していくことを期待したい。
		b	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等、家族同士の交流)	△	コロナ禍以後、まだ出ていないが徐々にそういう場面を増やせるよう努力している。	○	/	△	
		c	家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	◎	月1回、ご本人の様子を手紙で送付している。又、必要に応じて面会時、電話でも対応している。	◎	/	○	
		d	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	家族様に現状をしっかりと伝え、その上で接し方や対応について支援している。	/	/	/	
		e	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	運営推進会の時に報告している。	x	/	○	
		f	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	ケアプラン、月1回の手紙等で説明している。	/	/	/	
		g	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行うことで、居心地よく安心して過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	来訪時には必ず近況報告を行い、ご本人の現状をしっかりと伝えるようにしている。急な時は電話連絡を行っている。月1回手紙で生活状況を伝えている。	/	/	○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。(食費、光熱水費、その他の自己負担額、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	○	文書でも口頭でも説明し、同意を得ている。	/	/	/	
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	文書で行っている。退去時にも再度説明している。	/	/	/	
III. 地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域、事業所が所在する市町の日常生活圏、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	書面にて運営推進会の案内や施設の行事記録を送付し、理解を図っていたが現在は中止。	/	○	/	
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	○	近くの児童館との交流の機会や近所の方とも、挨拶をすることがある。	/	△	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	△	見守りや支援までの関係性は築けていないように思う。	/	/	/	
		d	地域の人が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	△	コロナ禍前も現在も、そういった関係までは築けていない。	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	△	目が合えば会釈や挨拶をする程度であり、立ち寄りまでではない。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	△	まだコロナ、インフルエンザの為難しいが徐々にしていきたい。	/	/	/	
		g	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得て、安全で豊かな暮らしができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	○	運営推進会に他施設から参加があったりと良好な関係が出てきていたがコロナ禍では、書面での交流となっていた。徐々に元に戻していくようにする。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
40	運営推進会議を活かした取り組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人の参加がある。	○	コロナ禍で中止していたが、今後は再開していく。	◎	/	○	コロナ禍が続き、法人の役職員のみでの運営推進会議の開催が続いていたが、令和5年8月から集合形式の会議を再開できるようになっている。会議には、市担当者や地域包括支援センター、民生委員、児童館、家族等の参加を得て、2階ユニットのリビングで、利用者や職員の普段の様子を見てもらいながら開催をしている。また、会議では、利用者の様子や事業所の状況、外部評価の取り組みなどを報告し、参加メンバーと意見交換をしている。さらに、会議の終了後には、会議の参加メンバーと全ての家族に、分かりやすい議事録を送付することができている。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告するとともに、会議で出された意見や提案等を活かした結果等も報告し、議事録を公表している。	○	評価への取組等は毎回行っており、結果についても報告、見直しも行うようにしている。	/	○	○	
		c	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	各自、テーマを決めて発表(前回はホームでの看取りについて)している。一人でも多く参加できる様、夜勤者も参加できる時間帯も工夫している。	/	/	○	
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	◎	年度ごとに運営方針を見直し、前年度の施設内研修内容を振り返り、反省点ならびに今後の取り組み方法について情報を共有している。	/	/	/	/
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	△	初めて入居される利用者ならびに家族に対しては、運営方針や理念を詳細に説明しているが、入居後は改めて理念を説明する機会を設けることができていない。	○	x	/	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	◎	職員の力量を上げるために、施設内のみならず施設外研修への参加を促し、必要な受講料は全額施設が負担している。管理者や施設運営母体の役員自身も現時点で求められている新しいノウハウを学ぶために、積極的に研修を受講している。	/	/	/	役員は事業所にいることが多く、日頃から、管理者や職員とコミュニケーションを図るとともに、悩みや相談があれば、個別にゆっくりと話を聞くようにしている。また、相談室を活用して、定期的に職員との個別面談を行い、勤務状況を確認するほか、意見や提案などを聞いている。法人として、介護福祉士等の資格取得の費用を助成したり、年間の研修計画を作成して内部研修を実施したりするなど、職員の育成やスキルアップに取り組んでいる。さらに、希望休や有給休暇の取得を促すなど、働きやすい職場環境づくりに努めており、長年勤務する職員も数名いる。職員の聞き取りから「職員同士の仲が良く、急な休みにも対応してくれ、働きやすい職場である」などの声を聞くことができた。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	各年度初めに研修計画を策定し、なるべく多くの職員が参加できるようにシステム(研修日が公休日にあたる職員に参加手を支払うなど)を採用している。	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	労働時間や休日については、可能な限り希望休を取得させ、本人の病欠のみならず家族の急病で休まざるを得ない場合も有給休暇処理をしている。給与や賞与に関しては、職員が所持している資格や勤務年数に応じて、公平に支給することを心掛けている。	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	△	同業種間交流は、他施設の運営推進会への参加や自施設のそれへの参加にとどまっているというのが現状である。	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	△	職員のストレス解消は、代表者、管理者、介護主任、施設運営法人の役員が個別に苦情や悩み事を聴取し、四者の話し合いの機会を設けるにとどまっている。	○	○	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解したうえで、これらが見逃ごされることがないように注意を払い、発見した場合の対応方法や手順についても理解している。	○	これまで行ってきた虐待防止に関する研修の集大成として、虐待防止規定を令和5年3月末日までに文書化し、改めて職員全員が周知する所存である。何が虐待に該当するか、虐待が疑われる際にどのように対処すべきかに関しては、管理者や介護主任が研修において繰り返し職員に教示し、周知できているつもりである。	/	/	○	定期的に、虐待や身体拘束、不適切ケアの防止などの研修を実施し、職員の理解促進に努めている。また、適切な言葉遣いを一覧表にまとめ、全ての職員に配布し、意識した対応ができるよう努めている。さらに、気になる言動が見られた場合には、職員間で注意し合うことができている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	日々のケアの振り返りは当日の引継ぎの機会を利用して管理者が中心になって行っている。必要がある場合には、臨時職員会を開くなどして、適時に指導者同士が話し合いの機会を設けている。	/	/	/	
		c	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	◎	悩みを抱えていそうな職員に対しては積極的に声掛けをし、病気の家族の世話をする職員や子育て中の職員に対しては休日や労働時間に配慮している。	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	◎	管理者やケアマネは積極的に虐待防止をテーマとする外部研修に参加することで、常に最新の情報を得ることに努め、その内容を研修で職員全員に周知することに努めている。	/	/	/	/
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	定期的に研修を行い、話し合う場を設けている。	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施設の要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	ケアの取り組みや工夫をその都度家族さんに報告している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを含め理解したうえで、利用者や家族の現状を踏まえ、パンフレット等の情報提供や相談に乗る等の支援を行っている。	○	キーパーソンが遠方に居住するなど必要な協力を得ることが困難な場合には、成年後見制度の存在を説明し、実際、利用されている利用者様がおられる。				
		b	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	利用者様の病気が重篤化したために専門的な医療支援が必要となった場合など、地域包括支援センターには適時に相談を上げている。また、法テラスを通じて成年後見を利用する入居者様もおられる。				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	◎	マニュアルを周知しているのはもちろん、実際に骨折があった場合などは、当日勤務の職員が緊急職員会(振り返り会)を開催し、対応に問題がなかったについて話し合いを行っている。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	定期的に勉強会、訓練を行い対応出来るようにしている。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一步手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	必ず事故報告書、ヒヤリハットに記入し、検討会を行い、同じような事が発生しないよう努めている。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	一人一人について検討し、事故防止につなげている。				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	開設以来、利用者や家族から介護に関する苦情を受けたことはないために、長い期間、マニュアルの見直しを行っていない。改めてマニュアルの見直しも近日常に行いたい。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	◎	上記のとおり、苦情を受けたことはないが、当ホーム利用中に経済的困窮などの相談(生活保護申請の相談)を受けた場合には、迅速に松山市の生活福祉課に相談を上げている。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	◎	病気の重篤化により専門的医療支援が必要になった場合、経済的支援が必要になった場合は、介護保険課や生活福祉課に速やかに相談するとともに、そこで示された対応案を利用者、家族に伝えて納得を得ている。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者や家族が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	相談窓口として、管理者、介護主任、運営法人役員を置き、運営推進会議には利用者のご家族をお招きしている。	◎		○	日々の関わりの中で、担当職員を中心に利用者から意見や要望を聞くとともに、表情やしぐさを観察して思いをくみ取るよう努めている。家族からは、電話連絡時や面会時、介護計画の更新時を活用して、意見や要望を聞くほか、運営推進会議に参加してもらい、意見交換ができる機会を設けている。また、管理者は職員と一緒に業務に従事しており、こまめに職員とのコミュニケーションを図るなど、なるべく多くの意見や提案を聞き取るよう努めている。
		b	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	△	入居契約時には相談窓口の詳細情報をお伝えしているが、入居後は適宜、利用者のご家族全員にお知らせはできていない。従来は個別的に相談を受けた際に迅速に対応しているものの、何等の形でご家族の認識を喚起するような方法を取っていききたい。				
		c	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	代表者は管理者の一人として常時介護の現場にあり、職員の意見や要望を聴取するのは主として毎日の引継ぎ時、職員会である。				
		d	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	管理者が職員の意見や要望を聴取するのは主として日々の引継ぎ時や職員会であるが、その都度職員から個別に要望を聞く機会も多い。それが施設運営に関する場合は、適時に運営法人の役員に?げている。				
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	△	外部評価の結果を受けた直後は、必ず職員会を開催して反省・検討会を開催して今後の目標を設定しているが、それを達成できているかについて「年1回以上」の検討会を開くことはできていないというのが現状である。				事業所のホームページに、ワムネットの外部評価のサービスの評価結果のリンクを貼り付け、結果を確認することができるようになっている。コロナ禍や感染対策が続き、役員のみ会議開催が続いていたこともあり、外部評価の目標達成に向けた取り組み状況のモニター依頼ができておらず、今回の外部評価の受審後に、会議の中で、サービスの評価結果や目標達成計画を報告するとともに、取り組みの経過を伝えながら、モニターをしてもらい、意見やアドバイスをもらうことも期待される。
		b	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて、事業所の現状や課題を明らかにするとともに、実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	外部評価の結果を踏まえて、直後に取り組むべき課題、目標を設定している。				
		c	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	△	従来は運営推進会において外部評価の報告を行っていたが、コロナ禍のもとでは外部者をお招きしての推進会の開催ができなかったために、モニターをお願いすることも叶わなかった。今後は詳細な報告とモニターを依頼する所存である。	○	○	△	
		d	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	評価の結果を受けて設定した目標に関し、1年経過後に目標達成成果を確認することに努めている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	マニュアルを作り、いつでも見れるようにしている。	/	/	/	年2回火災や夜間などを想定した避難訓練を実施している。うち、1回は消防署の立ち会いを得て訓練を実施している。訓練では、2階から非常階段を使用して、実際に利用者の避難誘導をしている。また、3日分の水や排泄用品などの備蓄品を確保することができている。災害発生時の地域との十分な協力体制が構築されておらず、地域アンケートの結果からも災害への備えに対して十分な理解が得られていないことが窺えるため、運営推進会議の開催に合わせて避難訓練を実施して、終了後に参加メンバーと話し合いをしたり、地域の防災訓練に参加協力をしたり、地区の自主防災組織に協力を呼びかけて合同訓練を実施するなど、少しずつ地域の協力体制づくりに向けた取り組みが行われていくことを期待したい。	
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	避難訓練を実施している。	/	/	/		
		c	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	定期的に行っている。	/	/	/		
		d	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	消防署立ち合いの年2回の避難訓練は行っているが、他事業所等との連携はできていない。	○	×	△		
		e	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	○	消防署立ち合いの年2回の避難訓練は行っているが、他事業所等との取り組みはできていない。	/	/	/		
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	×	直ぐ近くに地域包括支援センター味生があるため、周辺地域住民はおそらく地域包括に相談を上げていると思われる。ただ、当ホームにお手伝いできることがあれば、情報を発信していく所存であろう。	/	/	/	事業所として、地域住民から相談が寄せられた場合には、快く対応をしている。事業所のホームページに、「利用相談、見学希望の方はお気軽にお問い合わせください」との案内を掲載し、情報を発信している。また、運営推進会議等を通して、市行政や地域包括支援センターなどの関係機関と連携を図ることができる。加えて、法人の役員が、地域の連絡協議会に参画をしている。	
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	○	近隣の方からの相談を受け、いろいろな場面で対応することで支援できている。	/	/	△		○
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	×	活用できていない。	/	/	/		/
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	△	申し出があれば、協力していきたい。	/	/	/		/
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	○	推進会に参加して頂き、意見交換を図っている。催しものにも参加(受け入れ)出来ている。	/	/	/		○

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I.その人らしい暮らしを支える

(1)ケアマネジメント

(2)日々の支援

(3)生活環境づくり

(4)健康を維持するための支援

II.家族との支え合い

III.地域との支え合い

IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和6年1月18日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 16名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	2名	

※事業所記入

事業所番号	_____
事業所名	グループホーム媛の華
(ユニット名)	2F
記入者(管理者)	_____
氏名	大原 チスカ(2F管理者)、浅川 絵里(主任)
自己評価作成日	令和5年12月21日

(別表第1の2)

<p>【事業所理念】 安心安全で楽しく、地域の中で共に支えあって生活できる場を提供します。</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】 介護記録へ介護計画の番号を記入することについては、各職員の意識の差や書き忘れもあり、習慣化しているとは言えない。ただ、その人、それぞれのニーズや目標を意識して、介護記録の記入を行っている。また、その日に出動していない職員にもその時の様子がしっかりと伝わるように詳細を記入している。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 事業所の近隣には、児童館やスーパーマーケット、小学校、バス停があるなど、生活を送りやすい環境となっている。近隣の児童館が開催するハロウィンなどのイベントに参加協力をしたり、中学校の生徒から鉢植えの花のプレゼントをもらったりするなど、地域との交流を大切にされた支援が行われている。また、職員に希望休や有給休暇の取得を促したり、資格取得の助成をしたり、内部研修を充実させてスキルアップを図るなど、事業所として、働きやすい職場環境づくりに取り組んでいる。さらに、何かあれば気軽に相談をしたり、助け合ったりするなどの職員同士の良好な関係が築かれ、長年勤務する職員もいる。加えて、職員から活発な意見やアイデアが出され、季節の花見やクリスマス会の行事に工夫した演出が行われるなど、利用者の楽しみのある生活にも繋がっている。事業所のホームページ内のブログには、イベントや日々の利用者の様子が掲載され、楽しみに見ている孫世代などの家族も多い。</p>
---	--	---

評価結果表

【実施状況の評価】

◎よくできている ○ほぼできている △時々できている ×ほとんどできていない

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I. その人らしい暮らしを支える									
(1) ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	入所時に意向を確認し、それ以降もケアプランの作成時に確認したり、普段の会話から把握するよう努めている。	◎	/	○	
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	生活歴や家族からの情報を参考にしたり、本人の表情から読み取るなど、本人視点で検討するよう努めている。	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	面会時や電話のやりとりの際などに話し合っている。	/	/	/	入居時に、管理者等は利用者や家族から暮らし方の希望や思いなどを聞き、アセスメントシートやフェイスシートにまとめて記録をしている。また、介護計画の更新時や来訪時、電話連絡の際にも、家族から意向を確認し、把握するよう努めている。また、日々の関わりの中で、利用者から新たに知り得た思いや意向はシートに追記して、職員間で共有をしている。中には、思いや希望を伝えることが難しい利用者もあり、職員は表情や様子を観察しながら、思いをくみ取るよう努めている。
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	介護サービス計画書や介護記録に記入している。	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	職員間で適宜話し合い、見落とさないように留意している。	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	◎	入所時に家族に生活歴を記入していただいたり、直接口頭でも聞いたりしている。	/	/	◎	入居時に、家族に生活歴シートを記入してもらうほか、可能な限り、管理者等は自宅を訪問して利用者や家族と面談を行い、こだわりや生活歴、馴染みの生活環境などを聞き、情報が把握できるよう努めている。また、把握した情報は、利用者の個別ファイルに綴じ、職員がいつでも確認して共有できるようになっている。また、入居前に利用していた居宅介護支援事業所の介護支援専門員から情報を聞くほか、病院の関係者からサマリーなどの情報を提供してもらうなど、病歴や入居に至るまでの経緯などの情報も把握をしている。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態(身体面・精神面)や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	様子の観察を行い、記録にも残し、職員間で話し合い、状態の把握に努めている。	/	/	/	
		c	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握に努めている。(生活環境・職員のかかわり等)	○	介護記録に残したり、職員間で適宜話し、情報を共有し、把握に努めている。	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	本人に意向を確認したり、職員間で話し合う際は本人の視点を考慮している。	/	/	○	月1回の職員会議のほか、日々の申し送りの中で、利用者や家族から聞いた意見や意向のほか、把握した情報をもとに職員間で話し合い、利用者の課題やより良いサービス内容を検討している。
		b	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題の把握に努めている。	○	検討し、課題の把握に努めている。	/	/	/	
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	本人に意向をうかがい、できる限り反映するよう努めている。	/	/	/	
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	本人や家族に聞いたり、職員間でも適宜話し合い、反映するよう努めている。	◎	/	◎	事前に、利用者や家族から意見や意向を聞き、アセスメント情報や把握した情報をもとに、職員間で意見を出し合いながら話し合い、各ユニットの計画作成担当者を中心に介護計画の原案を作成し、法人の役員が最終確認をしている。また、利用者や家族の意向や要望のほか、主治医などの関係者の指示や助言を反映した計画となるよう努めている。
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	その方に合わせた過ごし方ができるような内容に努めている。	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	○	家族とのコミュニケーションを内容に入れている方もいる。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	◎	作成後に閲覧している。また、介護記録に内容を貼り、共有している。	/	/	/	○ 利用者の個別の介護記録のファイルに、介護計画が貼付され、記録を入力する際等に、職員は計画の内容を確認できるようになっている。介護記録の様式には、サービス内容の番号が振られ、計画に沿った支援ができているかどうかを確認しやすくなっている。また、介護計画の作成時や更新時には、職員に閲覧を行い、一人ひとりの利用者の介護計画の内容を周知するとともに、把握や理解促進に努めている。さらに、3か月に1回利用者ごとの担当相員を中心にモニタリングを行い、計画に沿ったサービスの実施の有無のほか、利用者の状況の確認をしている。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを個別具体的に記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	介護記録に記録し、適宜状況確認し、支援している。	/	/	/	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	期間に応じて見直ししている。	/	/	/	○ 介護計画の期間に応じて、基本的に3か月に1回計画の見直しをしている。計画の変更前には、担当職員を中心に、全ての利用者のモニタリングを行い、現状を確認するとともに、職員間で話し合いをしている。また、大きな状態の変化が生じた場合には、速やかに利用者や家族、関係者を交えて話し合い、現状に即した介護計画を作成している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	×	要望、変化がない場合は3ヶ月に1回程度の見直しをしている。	/	/	/	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	本人の状態に変化があった場合に計画を見直し、必要に応じて作成している。	/	/	/	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	朝・夕の引継ぎの場や必要に応じて話し合う機会を作っている。	/	/	/	◎ 月1回ユニット合同の職員会議を開催し、利用者の現状確認や課題のほか、運営状況などの話し合いをしている。議題提案書が設けられ、職員が事前に提案を提出し、会議の中で話しやすいような工夫をしている。また、勤務状況を考慮し、事前により多くの職員が会議に参加できる日を決め、周知をしている。さらに、緊急案件のある場合には、その日の出勤職員で話し合いをしている。加えて、会議に参加できなかった職員は会議録を確認してもらい、情報を共有している。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	話を振ったり、和やかな雰囲気や意見を言いやすいよう配慮している。	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫するとともに、参加できない職員にも内容を正確に共有している。	○	できるだけ人数のそろっている日に行うよう努めている。参加できなかった職員には閲覧や引継ぎノートで共有している。	/	/	/	
8	確実な申し送り、情報伝達		日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	◎	朝・夕に引継ぎを行い、不在の職員は日誌や引き継ぎノートへ記入し、伝わるようにしている。	◎	/	◎ 日誌や申し送りノートを確認しながら、日々朝夕の申し送りを実施している。出勤時に、必ず全ての職員が日誌の確認を行い、確認後に押印をする仕組みづくりが行われ、利用者の様子の確認や業務連絡の周知徹底をしている。また、申し送りノートのほか、介護記録内の重要事項にマーカーを引いて分かりやすくするなど、確実な情報伝達に努めている。	
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切に支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	歌いたい方はカラオケを行ったり、外に出たい方は日光浴をしたりしている。	/	/	/	◎ 毎朝、職員は利用者へ声をかけ、その日に行うレクリエーションの内容のほか、何をしておきたいかなどを聞き、なるべく希望に沿えるような支援に努めている。お茶の時間の飲み物は、紅茶やコーヒー、野菜ジュースなど、数種類の中から、好みの物を選ぶようにしている。また、職員から活発な意見やアイデアが出され、季節の花見やクリスマス会の行事に工夫した演出が行われるなど、利用者の楽しみのある生活にも繋がっている。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくらせている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	入浴後の着替えを選んでもらったり、10時の飲み物を選んでもらったりする。	/	/	/	
		c	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのベースや習慣を大切に支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	基本的には1日の流れが決まっているが、各個人に合わせて、できるだけ調整している。	/	/	/	
		d	利用者の活き活きした言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	できるだけコミュニケーションを図るよう留意したり、和やかな雰囲気作りに努めている。	/	/	/	
		e	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	表情や動作などの様子を観察し、対応している。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切に言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。(人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮、目立たずさりげない言葉かけや対応等)	○	研修で学んだり、職員間で普段から声をかけあっている。	◎	○	◎	○ 定期的を実施する研修の中で、職員は人権や尊厳などを学び、プライバシーや羞恥心に配慮し、意識した声かけや支援に努めている。気になる言葉遣いなどが見られた場合には、職員間で注意し合うことができている。また、居室を利用者のプライバシーのある空間と認識し、居室の入室時に、職員は必ずノックや声をしてから入室をしている。居室の不在時にも、事前に利用者の声をかけ、了承を得てから入室したり、一緒に入室したりすることも期待される。さらに、希望に応じて、居室の扉を開放している利用者もいるが、居室内が見えすぎないようにレースの暖簾をかけるなどの工夫も行われている。
		b	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	○	介助が必要な方も排泄中は一旦離れたり、配慮している。	/	/	/	
		c	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	△	本人が居室にいる場合は声をかけて入室しているが、いない場合は声をかけずに入ってしまう。	/	/	/	
		d	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	◎	研修で学び、理解している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けてもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	自ら、洗濯物たたみを申し出てくれる方がおり、お礼を伝えている。家事のことなど、教わることもある。	/	/	/	声荒げたり、物を投げたりするなどのトラブルが発生した場合には、大きなトラブルに発展しないように、職員が早期に利用者へ声をかけて、話を聞くなどの対応をしている。また、利用者同士の関係性を把握し、配席の考慮をするなどの工夫をしている。中には、世話役的な利用者もあり、レクリエーションの参加や家事をする際に、他の利用者にお誘いの声かけをしたり、職員に「何か困ったことはないか」と声をかけ、気にかけてくれたりするなど、助け合いや支え合う場面が見られ、職員は大いに助かっている。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	研修で学んでいる。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらおう場面をつくる等)。	○	職員が間に入ったり、必要に応じて席替えを行っている。	/	/	/	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	トラブルの際は仲裁し、必要に応じて席替えを行っている。	/	/	/	
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	入所時に家族さんに生活歴シートを記入していただいている。聞ける所は、本人さんにもお聞きしている。	/	/	/	
		b	知人や友人等が気軽に訪れたい、本人が知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていったりなど、これまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	△	コロナが9類に移行し、面会は前日に予約をさせていただけるようになったが、外出はまだ出来ない。	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者(および意思表示が困難な場合はご家族)の希望に沿って、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない) (※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	△	天気の良い日に駐車場で日光浴をしたり施設の周りを歩いたりしている。	○	△	○	感染対策で、買い物などの外出支援は控えているが、天気のいい日には、事業所の庭で日光浴をしながら季節の花の鑑賞をしたり、事業所周辺を散歩したりするなど、日常的に屋外に出て、利用者に季節や外気を感じられるような支援に取り組んでいる。また、コロナの5類移行に伴って制限が緩和され、近隣の小学校に桜を見に行ったり、ドライブに出かけて、車窓で花火大会を見たり、初詣で神社を参拝するなど、少しずつ以前のような外出支援ができるようになり、利用者にも喜ばれている。
		b	家族、地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	コロナが9類に移行したが、出来ていない。ボランティアや認知症サポーターの募集方法、仮に来ていただけるとしても利用者介護や介助をどこまでやっていただけるのか、把握できていないというのが現状です。	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	3ヶ月おきにケアプランの見直しを行い、全職員理解している。	/	/	/	一人ひとりの利用者の身体状況のほか、自身でできることや一部介助でできることなどを記録に残し、職員は把握することができている。また、着替えの際には、着る服を事前に用意して、自分でできることは時間がががかってでも可能な限りしてもらい、職員は見守りやできない部分のサポートをしている。さらに、散歩や体操を取り入れるほか、日常の動作を極力自分でしてもらうなど、少しでも身体機能の維持を図れるよう支援している。さらに、居室のタンスに、中にある下着や衣服などを記載したインデックスラベルを貼り、分かりやすく利用者自身で衣服を整理してもらえるよう工夫をしている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	変化があればその都度管理者を交えて話し合い対応をし、取り組んでいる。	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	その方のできる事を見極めてお願いしている。	/	◎	○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	できるだけ把握している。	/	/	/	洗濯物たたみや調理の下ごしらえ、テーブル拭きなど、職員は声をかけ、好きなことや得意な役割を担ってもらえるよう支援している。訪問調査日には、リビングのテーブルを囲み、利用者と職員が会話を楽しみながら、ゴミを捨てるのに便利な新聞折りをする様子を見ることができた。また、事業所内に置かれたプランターで野菜づくりが行われ、水やりを手伝ってもらったなど、野菜の成長や収穫が楽しみのある生活にも繋がっている。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごすように、日常的に、ホームの内外で一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	管理者を交えて定期的に話し合いをし、取り組みを行っている。	○	○	○	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つとらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	◎	入浴前など、本人と一緒に着る服を決めたりしている。				月1回訪問理容の来訪があり、好みの髪型に散髪してもらうことができている。重度の利用者にも、ベッド上で楽な姿勢のまま、散髪してもらうことも可能で、大いに助かっている。中には、居室に鏡やスキンケア用品を置くなどの整容スペースを設け、化粧やおしゃれを楽しむ利用者もいる。また、男性利用者には電子シェイバーを渡し、自分で髭剃りをしてもらい、職員は剃り残しの確認などのサポートをしている。さらに、衣類の乱れや食べこぼしなどの汚れが見られた場合には、利用者のプライドを傷つけないように、職員はさりげない声かけを行い、居室に移動して着替えてもらうなどの対応をしている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	○	コロナ禍前は、美容院に行かれる利用者様もあり、本人の希望を支援している。				
		c	自己決定がにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	一緒に考え支援している。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	△	外出はまだコロナのためできていないが施設内行事の時など楽しめるよう支援している。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にできなくてさきげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	◎	声掛けに気をつけている。	◎	◎	◎	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	×	コロナが流行してから行けていない。外部への理美容室へは、利用者ご本人が希望される場合に家族様に連れて行っていただくなどしていたが、コロナ禍のもと施設外へ出かけていただくことが難しいため、過去4年間は実現				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	◎	施設の散髪日にカットしてもらっている。服も更衣している。				
		17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	職員間で話し合いなどをして理解している。		
b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	×		食材はタイハイが持って来てくれる。利用者さんとはできていない。			○		
c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	△		利用者さんとはできていないが、テーブル拭きなどできる方にしていただいている。					
d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○		把握し、別の物で対応している。					
e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって音なつかしいもの等を取り入れている。	△		タイハイの食材を使っているので献立は決まっているが、旬の食材は使用している。			◎		
f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	○		健康状態に合わせて対応できている。					
g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○		お茶碗、湯飲みはその人の物を使用している。			○		
h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	△		一緒に食べてはいない。食べ方や食べこぼしのサポートはできている。			△		
i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	△		会話(声掛け)はできている。	◎		○		
j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べられる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○		人によって水分摂取量を記入したり、主食の量が医師の指示で決まっている方はきちんと計っている。					
k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	◎		エンシュアを使用したり、施設で作っている経口補水液を飲んでいただいている。					
l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	△		タイハイの食材を使用しているため職員で献立の話し合いなどは行っていない。栄養士のアドバイスは受けている。5年前まではグループホームあるべき指針に則り、介護職員や事務職員がスーパー等で食材を買い出し、これを職員が立てた献立に従って調理していたが、人手不足の折、介護職員はなるべく介			○		
m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○		夜勤者が消毒をするなど努めている。					

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	◎	デンタルの研修などを受け理解している。(訪問歯科)	/	/	/	毎食後に、職員は声をかけ、利用者は歯磨きなどの口腔ケアを実施している。自分で歯磨きができる利用者を含めて、全ての利用者の口腔内の状況を確認することができる。また、週1回歯科医の往診があり、希望する利用者のほか、訴えや異常が見られた場合には、診療を受けることができる。さらに、3か月に1回、全ての利用者が歯科検診を受診し、口腔内の状況を確認してもらうこともできている。加えて、歯科医や歯科衛生士から口腔ケアの方法等のアドバイスを受けているほか、年1回歯科医に勉強会を実施してもらうなど、職員は口腔ケアの必要性や重要性を理解することができる。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	訪問歯科に診ていただき、その結果を把握している。	/	/	◎	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	定期的に研修をしていただき活かしている。	/	/	/	
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	声掛けをし支援できている。	/	/	/	
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック、歯科医の受診等)	◎	月に1回は訪問歯科に診てもらっている。声掛けや一部介助などをして支援できている。	/	/	◎	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	本人に伝え納得いただいている。汚れたら声掛けしすぐに取り替え、気持ちよく使用していただいている。	/	/	/	事業所では、可能な限り利用者がトイレで排泄できるよう支援している。利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、定期的やタイミングを見て、職員は声かけやトイレ誘導をしている。排泄支援を通して、使用していたパッドの使用枚数が減少したほか、紙おむつから紙パンツに移行することができた利用者もいる。また、適切な排泄用品が使用できるように、職員会議や日々の申し送りの中で、職員間で話し合いをすることもある。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	理解している。	/	/	/	
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	◎	毎日記入している。職員同士で把握している。	/	/	/	
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	職員間で話し合い、その方の状態に合った支援を心掛けている。	◎	/	○	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	取り組んでいる。	/	/	/	
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	時間を決め誘導を行っている。	/	/	/	
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	話し合い理解いただいている。本人にも伝えている。	/	/	/	
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	○	使い分けている。	/	/	/	
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	水分補給の声掛けやハビリの声掛けしている。	/	/	/	
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)	○	職員の人数が少ないため、施設内で決められた曜日に従い入浴していただいている。(30分位。週2回～3回。適温。)	◎	/	○	基本的に、週2回利用者は入浴することができる。職員の勤務状況により、入浴できる曜日や時間帯を決めているが、利用者の希望に応じて、ゆったりとした湯船に浸かる長さや湯の温度などに対応している。また、1階にはリフト浴が設置され、利用者の状態に応じて使い分け、安心安全に湯船に浸かれるよう支援している。さらに、入浴を拒む利用者には、無理強いをすることなく、日にちや時間帯を変えて、声かけをするなどの対応をしている。加えて、自分専用の好みのシャンプーを使用してもらったり、冬至にゆずを浮かべたりするなど、少しでも入浴が楽しみになるような支援も行われている。
		b	一人ひとりが、くつろいだり気分が入浴できるよう支援している。	○	入浴に関しては、特殊浴槽(機械浴槽)をリニューアルしたということもあり、車椅子の方でも入浴を楽しんでいただけている。	/	/	/	
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	ご自身で出来る事はしていただき、出来ない所は介助している。	/	/	/	
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせずに気持ち良く入浴できるよう工夫している。	○	声掛けはするが、それでも拒否がある場合は無理強いしていない。	/	/	/	
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	体温、血圧、サーチの測定をしている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	△	ある程度は把握して対応している。	/	/	/	事業所には、入居前からの継続を含め、睡眠導入剤を服用している数名の利用者がいるものの、一人ひとりの利用者の睡眠状況を確認して医師に報告するとともに、薬の適量などを相談しながら調整をしている。また、夜間に利用者の目が覚めた場合には、職員が寄り添って話を聞いたり、付き添って事業所内を歩いたりするなどの対応をしている。さらに、日中に、より多くの活動や日光浴をしてもらうなど、なるべく服薬に頼らず、夜間に利用者が自然な安眠をしてもらえるような支援に取り組んでいる。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	取り組んでいる。	/	/	/	
		c	利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	職員間で話し合い、かかりつけ医師に報告している。	/	/	/	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	取り組んでいる。	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	利用者様の意志に従いながら、家族さんにコンタクトを取っている。	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	出来ている。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	配慮している。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	声掛けし、音信が取れる様にしている。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力してもらおうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	無理強いせず、伝えている。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	施設内ではお金を所持していただかないようにしている。	/	/	/	
		b	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	○	必要なものは家族の方に連絡し、許可をいただき職員が購入している。本人も納得いただいている。	/	/	/	
		c	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	×	施設内では、お金の所持はしていただいていません。	/	/	/	
		d	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	×	施設内ではお金の所持はしていただいていません。	/	/	/	
		e	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	出来ている。 当ホームでは、紛失の恐れがあるため利用者において金銭を管理しておらず、家族様から金銭を預かるとういうこともしていない。利用者が希望する物品や介護職員が必要と判断した物品がある場合は、必ずキーパーソンにその旨を伝え、キーパーソンご自身か、ホームが代理購入している。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	△	努力している。	◎	/	○	以前は、家族と一緒に外出や外泊することができていたが、コロナ禍や感染対策が続き、制限が設けられ、対応できない状況が続いている。また、感染対策の緩和に伴い、予約制で30分程度、居室内での面会が可能となっている。利用者や家族から出された要望には、可能な範囲で対応をしている。
(3) 生活環境づくり									
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	出来ている。ベンチ等用意して、天気の良い日にはそちらで話をしていただく様にしている。	◎	○	○	玄関扉にガラス張りの部分があり、来訪者は事業所内の様子が見えるようになっている。駐車場に門扉が設置されているものの、常時開放され、大きな看板が設置されるなど、車での来訪がしやすい環境となっている。玄関先には、手入れされた季節の花の鉢植えなどが置かれ、明るい雰囲気を感じられる。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を感じており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものが置いていない狭風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていない等。)	○	出来ている。	◎	○	○	リビングには、季節の飾り付けや造花などが飾られ、家庭的な雰囲気を感じられる。廊下には、華やかな日本画のジグソーパズルの作品が飾られ、階段の踊り場などの各所に、生花が生けられている。また、毎日の清掃や整理整頓が行われ、空気清浄機を置くなど、快適な空間づくりをしている。訪問調査日には、不快や音や光、臭いなどは感じられなかった。さらに、事業所内には、昭和歌謡やクラシックなどの音楽が流され、利用者はリラックスしながら生活が送れるよう工夫をしている。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	出来ている。			◎	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	タペストリーを毎月かえて(季節に応じた)対応している。			◎	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	出来ている。				
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	日中、夜間必要以外の時は戸口を開けている。	◎		○	居室には、ベッドやタンス、エアコンが備え付けられている。また、使い慣れた家具や雑貨類などのほか、馴染みの物を持ち込んで配置するなど、居心地の良い空間づくりをしている。中には、好きな手芸などの作品が置かれ、居室内に作業できる机を置き、趣味を楽しむスペースを設けている利用者もいる。
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、混乱や失敗を防ぎ、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	個人に沿ったケアプランに基づき、自立した生活を送っていただけの様配慮して工夫している。			○	居室の入り口に氏名のほか、浴室を分かりやすく表示するなど、利用者が迷わないよう工夫をしている。また、廊下には不要な物を置かず、歩行器や車いすで移動できる十分な動線が確保されている。
		b	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	出来ている。				
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の入り口、玄関に鍵をかけることの弊害(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)を理解し、日中は玄関に鍵をかけなくても済むように工夫している。(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)	○	外出される事があり、危険を伴う場合もあるが常に鍵をかけたままにしています。施錠は身体拘束に該当するため、夜勤者が一人勤務となる午後7時までは玄関ならびに共用部分への出入口は解放しています。	◎	◎	◎	職員は、鍵をかけることの弊害を理解している。日中に、玄関の施錠はしておらず、夜間のみ防犯のために施錠をしている。駐車場の門扉は、常時開放されている。また、各ユニットの入り口も、日中に常時開放され、夜間のみ各ユニットで職員が1人になるため、扉を閉めるようにしている。さらに、ユニットの入り口にはチャイムが取り付けられ、利用者の出入りを職員は分かりやすくなっている。中には、外出願望のある利用者もおり、職員と一緒に屋外に出て気分転換を図ったり、ゆっくりと話を聞いたりするなど、利用者の気持ちに寄り添いながら、安心してもらえるよう心がけた支援に努めている。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	家族の方には報告等しっかりさせていただいています。				
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	把握しているし、伝達もしている。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	出来ている。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	○	出来ている。				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	○	病院と利用者の細かい所まで連絡するように心掛けている。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	病院より受けた指示をきちんと利用者に対応できるようにしている。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	受診が必要ならきちんと受診して、その結果をかかりつけ医に伝えている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	◎	入院の際はこちらの状況はきちんと伝えるようにしている。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、日頃から病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	病院へ行く事はしていないがTELにて情報交換はしている。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	○	職場に看護師はいないがかかりつけ医院とセントケアと契約しているので相談は出来ている。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	○	24時間相談できる。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	日々の顔色、バイタル、様子を確認して情報協力している。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解し、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	理解して対応し、変化とかがあればすぐに医院に報告して対応してもらっている。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	◎	手に取り、名前、顔を確認している。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	◎	薬でもそれ以外でも利用者に変化が見られると医院にTELして情報提供をしている。				
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	◎	契約の際に将来どうしたいのか本人、御家族に意向の確認を行っており、また重度化した際にはかかりつけ医と話し合い密にし、情報共有している。直近で問題となったのが、「グループホームでは看取りはできんよね？」という、ご自身が昔、看護師としての就労経験のあるキーパーソンさんの質問でした。現在の看取り制度ならびに当ホームの対応を詳細に説明したものの、看取りという概念を全く理解できず、今後はご家族に				事業所は、「看取り介護に係る指針及び規定」を整備し、入居時のほか、状態変化が生じた場合等に、利用者や家族に対応できることなどを説明している。また、「看取り介護のための手引き」が作成され、年1回程度、看取り研修を実施するなど、重度化や終末期の支援に対して、職員の理解促進に努めている。事業所には、医療機関と24時間連絡が取れる体制が整備され、終末期に主治医から家族に状態等の説明が行われ、看取り支援の方針を共有する場を設けるなど、家族等が納得した支援が行われるように取り組んでいる。さらに、看取り支援時には、家族と利用者が最期の時間を共有できるように、時間制限等を設けずに、居室内でゆっくりと過ごしてもらっている。加えて、看取り支援後には、職員間で支援の振り返りを行い、今後の支援に繋げている。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけではなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	時期が来た時は話し合いをして方針を決めている。	○		◎	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	話し合いを行い、チームケアで支援できるよう努めている。不安を抱える職員に対しては助言を行っている。				
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	入居時および重度化、終末期に説明を行い理解を得るように努めている。				
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	その度、話し合いをして今後に備えて検討している。				
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	再々、TELしてその度様子をお伝えしている。				
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	△	研修などは行っている。知識として頭には入りよう研修は必要。				
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	△	体制は出来ているがそれで動いているかどうかはわからない。				
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れ、随時対応している。	○	行政からの通達やかかりつけ医、インターネット等から情報を入手し取り入れている。				
		d	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	◎	出来ているし、利用者、来訪者にもしていただいている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人をともに支え合う家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	月一のコメントノートを活用して利用者の事をお知らせしている。				コロナ禍や感染対策が続き、家族の参加できる行事の開催は休止状態が続いている。今後、夕涼み会などの行事を兼ねて、家族会を開催することを予定している。また、事前の予約制で、30分程度の居室内での家族との面会が可能となり、毎週来訪する家族がいるなど、利用者や家族に喜ばれている。月1回、利用者ごとの担当職員が利用者の様子を書いた手紙を添えて、請求書と一緒に送付するとともに、様子が日頃と違う場合等にも、家族に電話連絡をしている。希望に応じて、オンライン電話で連絡を取り合う家族もいる。さらに、様々な行事の写真などを掲載した嬢の華よりを、1年分を取りまとめて家族に送付している。加えて、ホームページ内にあるブログには、日々の利用者の暮らしの様子を掲載し、情報を発信している。利用者家族等アンケート結果から、事業所の出来事や職員の入退職などが家族に十分に伝わっていないことが窺えるため、今後は、家族に担当職員等の異動を報告したり、運営推進会議等の中で、職員の入退職や入れ替わりのないことを伝えたり、事業所の出来事を報告するなど、周知方法を職員間で検討していくことを期待したい。
		b	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等、家族同士の交流)	×	今はまだ出来ない。 コロナ前は家族会を年1回開催して、利用者と一緒に食事しながら談笑する機会を設けていましたが、コロナ禍のもとでは実現できておらず、これに代わるものとして「嬢の華便り」という利用者の日々の暮らしやイベントの様子を撮影した写真を中心とするまじり冊子を配布し、各	○		△	
		c	家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	TELにて報告させていただいたり月一のコメントノートも活用している。	◎		○	
		d	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	少しずつ、面会も出来るようになったのですが今以上に連絡取って心が離れないよう気を付けたいです。				
		e	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	運営推進会を2ヶ月に1回行い、報告している。		×	○	
		f	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	リスクに関してはその度話し合っており対応も話し合える。				
		g	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行うことで、居心地よく安心して過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	来訪やTELでも行っている。			○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。(食費、光熱水費、その他の自己負担額、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	○	文書でも口頭でも説明し、同意を得ている。				
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	文書で行っている。退去時にも再度説明している。				
III. 地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域、事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	△	今はまだ難しいが今後出来るようになれば良いと考えている。 地域の方々とは、地域包括支援センターで毎年開催される協議会(味生小、味生第二小、津田中、児童館、町内会、子供食堂主催者の方々で構成)に参加し、当ホームのイベントへの協力予定を中心に話し合っているが、地域での祭りやイベントには毎年参加させてもらっている。		○		
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	△	まだまだ行事なしでの交流は難しい。近所の方とのあいさつするくらい。		△	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	×	これから、増えていってくれば良いと思っている。				
		d	地域の人が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	×	そうしていきたいと思っている。				
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	△	あいさつをする事は出来ている。				
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	×	まだコロナの為、難しい状態である。				
		g	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得て、安全で豊かな暮らしができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	△	まだ出歩く事は難しいと考えている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
40	運営推進会議を活かした取り組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	△	R5.8月久しぶりに再会しました。	◎	/	○	コロナ禍が続き、法人の役職員のみでの運営推進会議の開催が続いていたが、令和5年8月から集合形式の会議を再開できるようになっている。会議には、市担当者や地域包括支援センター、民生委員、児童館、家族等の参加を得て、2階ユニットのリビングで、利用者や職員の普段の様子を見せながら開催をしている。また、会議では、利用者の様子や事業所の状況、外部評価の取り組みなどを報告し、参加メンバーと意見交換をしている。さらに、会議の終了後には、会議の参加メンバーと全ての家族に、分かりやすい議事録を送付することができている。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告するとともに、会議で出された意見や提案等を活かした結果等も報告し、議事録を公表している。	◎	利用者やサービス状況、外部評価の内容、目標達成計画の報告をしている。	/	○	○	
		c	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	担当者がテーマを決めて日程にも配慮して行っている。	/	/	○	
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	◎	年度ごとに運営方針を見直し、前年度の施設内研修内容を振り返り、反省点ならびに今後の取り組み方法について情報を共有している。	/	/	/	/
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	△	始めて入居される利用者ならびに家族に対しては、運営方針や理念を詳細に説明しているが、入居後は改めて理念を説明する機会を設けることができていない。	○	x	/	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	◎	職員の力量を上げるために、施設内のみならず施設外研修への参加を促し、必要な受講料は全額施設が負担している。管理者や施設運営母体の役員自身も現時点で求められている新しいノウハウを学ぶために、積極的に研修を受講している。	/	/	/	役員は事業所にいることが多く、日頃から、管理者や職員とコミュニケーションを図るとともに、悩みや相談があれば、個別にゆっくりと話を聞くようにしている。また、相談室を活用して、定期的に職員との個別面談を行い、勤務状況を確認するほか、意見や提案などを聞いている。法人として、介護福祉士等の資格取得の費用を助成したり、年間の研修計画を作成して内部研修を実施したりするなど、職員の育成やスキルアップに取り組んでいる。さらに、希望休や有給休暇の取得を促すなど、働きやすい職場環境づくりに努めており、長年勤務する職員も数名いる。職員の聞き取りから「職員同士の仲が良く、急な休みにも対応してくれ、働きやすい職場である」などの声を聞くことができた。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	各年度初めに研修計画を策定し、なるべく多くの職員が参加できるようなシステム(研修日が公休日にあたる職員に参加手を支払うなど)を採用している	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	労働時間や休日については、可能な限り希望休を取得させ、本人の病欠のみならず家族の急病で休まざるを得ない場合も有給休暇処理をしている。給与や賞与に関しては、職員が所持している資格や勤務年数に応じて、公平に支給することを心掛けている。	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	△	同業種間交流は、他施設の運営推進会への参加や自施設のそれへの参加にとどまっているというのが現状である。	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	△	職員のストレス解消は、代表者、管理者、介護主任、施設運営法人の役員が個別に苦情や悩み事を聴取し、四者の話し合いの機会を設けるにとどまっている。	○	○	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解したうえで、これらが見逃ごされることがないように注意を払い、発見した場合の対応方法や手順についても理解している。	○	これまで行ってきた虐待防止に関する研修の集大成として、虐待防止規定を令和5年3月末日までに文書化し、改めて職員全員が周知する所存である。何が虐待に該当するか、虐待が疑われる際にどのように対処すべきかに関しては、管理者や介護主任が研修において繰り返し職員に教示し、周知できているつもりである。	/	/	○	定期的に、虐待や身体拘束、不適切ケアの防止などの研修を実施し、職員の理解促進に努めている。また、適切な言葉遣いを一覧表にまとめ、全ての職員に配布し、意識した対応ができるよう努めている。さらに、気になる言動が見られた場合には、職員間で注意し合うことができている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返り話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	日々のケアの振り返りは当日の引継ぎの機会を利用して管理者が中心になって行っている。必要がある場合には、臨時職員会を開くなどして、適時に指導者同士が話し合いの機会を設けている。	/	/	/	
		c	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	◎	悩みを抱えているような職員に対しては積極的に声掛けをし、病気の家族の世話をする職員や子育て中の職員に対しては休日や労働時間に配慮している。	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	◎	管理者やケアマネは積極的に虐待防止をテーマとする外部研修に参加することで、常に最新の情報を得ることに努め、その内容を研修で職員全員に周知することに努めている。	/	/	/	/
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	◎	研修や3か月に1回身体拘束委員会で話し合う機会を作っている。	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施設の要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	◎	家族様よりそういった要望はないが各職員が身体拘束にならないように話し合っている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを含め理解したうえで、利用者や家族の現状を踏まえ、パンフレット等の情報提供や相談に乗る等の支援を行っている。	○	キーパーソンが遠方に居住するなど必要な協力を得ることが困難な場合には、成年後見制度の存在を説明し、実際、利用されている利用者様がおられる。				
		b	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	利用者様の病気が重篤化したために専門的な医療支援が必要となった場合など、地域包括支援センターには適時に相談を上げている。また、法テラスを通じて成年後見を利用する入居者様もおられる。				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	◎	マニュアルを周知しているのはもちろん、実際に骨折があった場合などは、当日勤務の職員が緊急職員(振り返り会)を開催し、対応に問題がなかったかについて話し合いを行っている。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	研修や訓練を行い、全職員が緊急時に対応出来るように努めている。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	◎	事故報告書やヒヤリハットを記入、活用し検討会を行い、同様の事案防止に努めている。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	◎	各利用者様の考えられるリスクを職員間で逐一共有検討し、事故防止に努めている。				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	開設以来、利用者や家族から介護に関する苦情を受けたことはないために、長い期間、マニュアルの見直しを行っていない。改めてマニュアルの見直しも近日中に行いたい。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	◎	上記のとおり、苦情を受けたことはないが、当ホーム利用中に経済的困窮などの相談(生活保護申請の相談)を受けた場合には、迅速に松山市の生活福祉課に相談を上げている。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	◎	病気の重篤化により専門的医療支援が必要になった場合、経済的支援が必要になった場合は、介護保険課や生活福祉課に速やかに相談するとともに、そこで示された対応案を利用者、家族に伝えて納得を得ている。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者や家族が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	相談窓口として、管理者、介護主任、運営法人役員を置き、運営推進会議には利用者のご家族をお招きしている。	◎		○	日々の関わりの中で、担当職員を中心に利用者から意見や要望を聞くとともに、表情やしぐさを観察して思いをくみ取るよう努めている。家族からは、電話連絡時や面会時、介護計画の更新時を活用して、意見や要望を聞くほか、運営推進会議に参加してもらい、意見交換ができる機会を設けている。また、管理者は職員と一緒に業務に従事しており、こまめに職員とのコミュニケーションを図るなど、なるべく多くの意見や提案を聞き取るよう努めている。
		b	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	△	入居契約時には相談窓口の詳細情報をお伝えしているが、入居後は適宜、利用者のご家族全員にお知らせはできていない。従来は個別的に相談を受けた際に迅速に対応しているものの、何等の形でご家族の認識を喚起するような方法を取っていかない。				
		c	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	代表者は管理者の一人として常時介護の現場にあり、職員の意見や要望を聴取するのは主として毎日の引継ぎ時、職員会である。				
		d	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	管理者が職員の意見や要望を聴取するのは主として日々の引継ぎ時や職員会であるが、その都度職員から個別に要望を聞く機会も多い。それが施設運営に関する場合は、適時に運営法人の役員に繋げている。				
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	△	外部評価の結果を受けた直後は、必ず職員会を開催して反省・検討会を開催して今後の目標を設定しているが、それを達成できているかについて「年1回以上」の検討会を開くことはできていないというのが現状である。				事業所のホームページに、ワムネットの外部評価のサービスの評価結果のリンクを貼り付け、結果を確認することができるようになっている。コロナ禍や感染対策が続き、役員のみ会議開催が続いていたこともあり、外部評価の目標達成に向けた取り組み状況のモニター依頼ができておらず、今回の外部評価の受審後に、会議の中で、サービスの評価結果や目標達成計画を報告するとともに、取り組みの経過を伝えながら、モニターをしてもらい、意見やアドバイスをもらうことも期待される。
		b	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて、事業所の現状や課題を明らかにするとともに、実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	外部評価の結果を踏まえて、直後に取り組むべき課題、目標を設定している。				
		c	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	△	従来は運営推進会において外部評価の報告を行っていたが、コロナ禍のもとでは外部者をお招きしての推進会の開催ができなかったためにモニターをお願いすることも叶わなかった。今後は詳細な報告とモニターを依頼する所存である。	○	○	△	
		d	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	評価の結果を受けて設定した目標に関し、1年経過後に目標達成成果を確認することに努めている。				

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	各災害のマニュアルを作成し、周知している。	/	/	/	年2回火災や夜間などを想定した避難訓練を実施している。うち、1回は消防署の立ち会いを得て訓練を実施している。訓練では、2階から非常階段を使用して、実際に利用者の避難誘導をしている。また、3日分の水や排泄用品などの備蓄品を確保することができている。災害発生時の地域との十分な協力体制が構築されておらず、地域アンケートの結果からも災害への備えに対して十分な理解が得られていないことが窺えるため、運営推進会議の開催に合わせて避難訓練を実施して、終了後に参加メンバーと話し合いをしたり、地域の防災訓練に参加協力をしたり、地区の自主防災組織に協力を呼びかけて合同訓練を実施するなど、少しずつ地域の協力体制づくりに向けた取り組みが行われていくことを期待したい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	◎	1年間を通して、日中夜間想定火災避難訓練各1回、地震避難訓練、風水害避難訓練を実施している。	/	/	/	
		c	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	◎	1ヶ月に1度、点検表を活用し点検を行っている。	/	/	/	
		d	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	△	コロナ禍のため地域住民に参加していただくことは出来ていないが、消防職員に同席していただき火災避難訓練を行っている。	○	×	△	
		e	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	×	出来ていない。	/	/	/	
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	×	直ぐ近くに地域包括支援センター味生があるため、周辺地域住民はおそらく地域包括に相談を上げていると思われる。ただ、当ホームにお手伝いできることがあれば、情報を発信していく所存であろう。	/	/	/	事業所として、地域住民から相談が寄せられた場合には、快く対応をしている。事業所のホームページに、「利用相談、見学希望の方はお気軽にお問い合わせください」との案内を掲載し、情報を発信している。また、運営推進会議等を通して、市行政や地域包括支援センターなどの関係機関と連携を図ることができる。加えて、法人の役員が、地域の連絡協議会に参画をしている。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	○	近隣の方から相談を受けて、対応している。	/	△	○	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	×	出来ていない。	/	/	/	
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	×	出来ていない。	/	/	/	
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	×	出来ていない。	/	/	○	